流通とＳＣ・私の視点

2016 年 10 月 12 日

視点(2044)
（ＳＣ理論編）

ＳＣの規模の拡大と適正規模!!

ＳＣの規模は「ＣＳＣ時代のＳＣ面積 12,000～18,000 ㎡」から「初期のＲＳＣ時代のＳＣ面積 40,000～50,000 ㎡」、さらに今や「ＲＳＣはＳＣ面積 70,000～80,000 ㎡（場合によっては 100,000 ㎡以上）」と巨大化しています。このＳＣの巨大化は**「進化」**（適正規模への道）なのでしょうか、それとも**「破滅」**（最後のあがきへの道）なのでしょうか。

アメリカのＲＳＣ（基準値 150,000 ㎡）も日本のＲＳＣ（基準値 75,000 ㎡）も巨大化（大規模化）しており、これは比喩論ですが、「恐竜は巨大化し過ぎて自然環境に対応できずに滅びた」と言われています。一方、「大は小に勝つ。小が大に勝つのは大が“へま”をしたとき」という言葉もあります。ランチェスター理論も、大が小に勝つ理論です。実は、恐竜が巨大化し過ぎて自然環境に対応できなかったというのは“嘘”です。恐竜が滅びたのは地球に隕石が衝突して地球の自然環境が大きく変化し、その自然の大変化に対応できなかったからであり、大変化がなければ滅亡することはなかったのです。恐竜が大き過ぎたから自然環境に対応できなかったのではありません。事実、恐竜は敏捷性が高く頭脳も発展しており、もし隕石の衝突がなければ人間に代わる生物界の覇権動物になっていたとも言われています。要するに、巨大化が問題なのではなく、体の大きさと自然界の豊かさのバランスなのです。

このことをＳＣに当てはめると、ＳＣの大きさとマーケットのバランスが取れていれば、ＳＣの大小には関係がないのです。問題は、マーケット上の大きな変化が起こったときに、ＳＣは自らの規模を変えなければ長期繁栄できないということです。競争に勝つためには必然的にＳＣ、特にＲＳＣは大規模化（巨大化とは意味が異なる）します。ここで、規模の拡大を出口の相違により異なる２つのタイプで示します。

規模の拡大

適正化への大規模化		自滅への巨大化	
競争激化やマーケットの拡大に伴う拡大		競争激化のみでマーケットの拡大を伴わない拡大	
成熟経済時代の脱・過渡期業態の規模拡大	成長経済時代の全分野の大規模化	ソ連の崩壊型	恐竜の滅亡型
競争に勝つために、「マーケット全体あるいは特定分野」で競争優位性を発揮するための規模拡大	成長経済時代（モダン消費経済時代）は、各産業のあらゆる企業や業態が規模拡大	経済規模をはるかに上回る軍事力・軍拡競争	地球環境の大変化に対応できなかった
自らの規模 ＜ マーケット規模		**自らの規模 ＞ マーケット規模**	
競争に勝つための適正規模化	マーケットに対応するための適正規模化	アメリカに勝つための軍事力の巨大化を支える経済力がなかった	競争に勝つために巨大化したが、世の中が一変して巨大化があだとなった
規模のメリットを享受できた		**規模のメリットが発揮できなかった**	

(株)ダイナミックマーケティング社[+6]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2016 All rights reserved.